未来と健康を守る最大の力は「教育」

全ての人々の尊厳が輝く世界を

ヨハネスブルクの小学校を訪れたチャカチャカさん（中央）。子どもたちに、手洗いなど、衛生管理の大切さを教えている　©Greg Marinovich/Getty Images

1面から続く

アパルトヘイトでは、私たち黒人は存在そのものを否定されました。

〝お前は存在しない。お前は物事を考えることができない。お前は、自分のことなど何一つできない。なぜなら肌の色が違うからだ〟──こう言われていたのです。

人間が人間に対して、こんな非道を行う。あまりに残酷で悲しいことでした。

私は自分が歌手になったとき、南アで起きている「残虐行為」を世界に伝えるチャンスだと思ったのです。歌手になり、私は多くの国を訪れ、さまざまな人と会えるようになりました。アパルトヘイトの悲惨な実態を語りたい。世界に伝えたい。その思いは、ますます強くなりました。

だから私は、「私が音楽に巡り合った」のではなく、「音楽が、私を見いだしてくれたのだ」と感じています。音楽によって、私は〝自分が本当にやりたかったこと〟ができるようになったのです。

コロナ禍で困窮した人への食料配布を行う（右から２人目がチャカチャカさん）　©Princess of Africa Foundation

「分かち合う」精神が重要

──歌手として活躍する一方、「プリンセス・オブ・アフリカ財団」を通じて感染症対策の活動も行われています。きっかけは何だったのでしょうか。

2005年にアフリカ中部のガボン共和国を訪れた際、バンドの仲間がマラリアに感染し、亡くなってしまったのです。この悲しい出来事をきっかけに、マラリアについて学び、自分に何ができるかを模索するようになりました。

アフリカを旅する中で、感染症の悲惨な現状を目にしました。例えば、ウガンダに行ったときのことです。エイズに感染した人とは「話してはいけない」「同じコップで水を飲んではいけない」「触れてはいけない」という誤った情報が広まっていました。

エイズ患者への多くの差別が存在していることを知り、偏見を克服するための教育の重要性を痛感したのです。

エイズ、結核、マラリアの三大感染症をはじめ、感染症との戦いにおける最大の武器は、人間の「声」です。私は、「声なき人」の「声」となって感染症と戦おう──そう心に決めたのです。

その後、「プリンセス・オブ・アフリカ財団」を立ち上げ、他の団体とも協力して活動を進めてきました。具体的には、支援金を集めるとともに、学校で子どもたちに手洗いの大切さを教えたり、日本企業の協力のもと、（蚊が病原体を媒介する）マラリア対策の一つとして、蚊帳の配布を行ったりしています。

──2020年には世界で2億4100万人がマラリアに感染し、62万7000人が命を落としたといわれています。その95%がアフリカで発生し、犠牲者の多くは5歳以下の子どもたちです。

病気には国境がありません。南アはマラリア患者はそれほど多くありませんが、ジンバブエやモザンビークと国境を接しており、人々の往来とともに病気も入ってくるのです。重要なのはワクチン接種の推進です。また室内での殺虫剤の使用や、蚊帳の中で寝るといった基本的な対策を継続することが大切です。

資金の援助とともに、「どうすれば感染症を防げるか」という知識、教育が必要です。ただお金を渡して、去っていく──そうした支援の在り方では、真の助けにはなりません。私たちの財団が取り組んでいるのは、こうした生涯にわたって人々の力となる「教育」なのです。

人間こそが最大の「資源」です。人々が健康でなければ、国家といっても、何も生み出すことはできません。そして、健康であれば人々はより幸福になり、より社会のために働くことができます。

新型コロナウイルスのパンデミックも、世界に深刻な被害をもたらしました。多くの人が命を落とし、仕事を失いました。日々の食事にさえ、事欠く人もいます。私は今こそ「分かち合い」の精神が重要だと感じています。

子どもたちの命を救う、マラリア感染予防のための蚊帳　©Pascal Deloche/Getty Images

1990年、27年半に及ぶ獄中闘争を勝ち越えて出獄したマンデラ氏㊧と共に。親子のような絆を結んだ（本人提供）

「音楽のおかげで生き抜けた」

──チャカチャカさんの歌は、アパルトヘイトと戦って投獄されていたネルソン・マンデラ氏（黒人初の南アフリカ大統領）の心の支えにもなったと聞きました。マンデラ氏との交流について教えてください。

当時の政府は、反アパルトヘイト闘争の象徴であったマンデラ氏の写真を、人々が見られないようにしていました。

本を見ても彼の写真はありませんでした。だから若い頃の私は、彼がどんな顔をしているのか、まったく分からなかったのです。

彼の風貌を知っているのは、昔の同級生や家族、同じ地域で育った人々だけでした。アパルトヘイトを行っていた政府は、「ネルソン・マンデラ」という存在そのものを、社会から抹殺しようとしていたのです。

1990年にマンデラ氏が出獄したとき、招待を受けて、彼に会う機会を得ました。この偉大な人物に会えることは、大きな喜びでした。

彼はこう言いました。

「あなたの音楽のおかげで、私は牢獄で生き抜くことができた」と。私はそれを聞き、本当に感動し、うれしく思いました。私の音楽が、アパルトヘイトと戦う人々に、生きるための力を送ることができたと知ったからです。

その後も、マンデラ氏との親子のような関係は続きました。彼が「ネルソン・マンデラ子ども基金」を創設した時には、初代の親善大使になるように頼まれました。

祖国の全ての人々の自由のために戦った、偉大な人物と交流を結ぶことができたことを、私は心から誇りに思っています。

多くの偉大なリーダーたちのおかげで、私は今日、自由な南アフリカ人として、胸を張って歩くことができるのです。

──池田SGI会長はマンデラ氏と90年、95年の2度にわたり会見するなど、交流を重ねてきました。池田会長は、「『人間』として見ない、『レッテル』で見る──これは南アだけの特殊事情ではない。人権抑圧の根っこには、いつも、この錯誤がある」と指摘しています。

白人にだって「いい人」もいれば「悪い人」もいる。黒人にも「いい人」も「悪い人」もいます。さらにいえば、一人の人間の心にも「善」と「悪」が同居しています。

しかし、ひとたび一つの「システム」が動き出すと、人間は分類されてしまうのです。「白人は上」で「黒人は下」。「〇〇人は善」で「〇〇人は悪」というように──。

「悪い人間」とは、人を殺したり、物を盗んだりする人間です。人権や自由を否定し、権力の腐敗を許す人間です。人種や民族で「優劣」「善悪」が決まるわけではありません。

私たち人間は皆、異なった姿で生まれてきます。目の形や鼻の形も違います。花々もそうです。黄色い花も、緑色の花も、紫色の花もある。だから素晴らしいのです。もし私たちが全員、全く同じだったら、世界は退屈なものになってしまうでしょう。

私たちは、一人一人が異なる存在です。だからこそ、寛容の精神が大切なのです。だからこそ、互いに学び合い、感謝し合う必要があるのです。そうした努力の中で、差別や争いのない、多様性と尊厳の輝く社会が築かれていくのではないでしょうか。

SDGs × SEIKYO

ご感想をお寄せください

sdgs@seikyo-np.jp

右＝聖教電子版の「ＳＤＧｓ」特集ページが閲覧できます。

左＝海外識者の記事の英語版を読むことができます。

しらぬい
不知火おでこちゃん
熊本

デコポン発祥の地
熊本県より直送

契約農家が手がける
大人気商品

感動！の糖度13度
※当社計測・数値は目安です

※写真はイメージです。

味が濃くて食べやすい「不知火おでこちゃん」

デコポン発祥の地である熊本県の契約農家がお届けする大人気商品。味が濃くとってもジューシーで、皮も簡単にむきやすく一度食べたらやみつきになること間違いなしの逸品！
さらに甘味を感じたい方は、しばらく置いてから食べると酸味が抑えられいっそう美味しくいただけます。
また、日持ちがするのでまとめ買いがお得です！この機会にぜひご賞味下さい。

初回限定　1箱約2kg（L～4L サイズ混合）
1,990円（税込）
＋別途送料 1,100円（税込）
さらに！2箱以上で送料無料 ※同住所に限ります。
※お一人様6箱まで。お届けは受付から2週間以内。

ご注文はお電話、FAX、はがき、ネットより受け付けております。聖教1161 とお伝え下さい。

【通話無料】フリーダイヤル 0120-16-0141
☎096-273-9101（受付は月～土曜／午前9時～午後5時）日曜・祝日はFAXへ
FAX 096-273-9102（24時間受付）（電話・FAXの番号違いにお気を付け下さい。）

おでこちゃんはこちらからも注文可能！
かほうどう　検索

株式会社 果宝堂（かほうどう）
〒861-8045 熊本県熊本市東区小山4丁目8-147

ご注文の際は①聖教1161係②電話番号③お名前（フリガナ）④生年月日（任意）⑤〒住所⑥商品名⑦箱数をご記入下さい。お支払いは代金引換（代引き手数料（330円税込）はお客様ご負担）。送料別途1,100円（税込）。同住所2箱以上のご注文で送料無料。※沖縄・離島は別途送料がかかります。お届けは受付から2週間以内になります。返品は商品違い、不良品に限り可。その際は商品到着後3日以内にご連絡下さい。なお商品の特性上、お客様都合での返品・交換は出来ません。※個人情報は、弊社の商品・サービスの提供以外には使用いたしません。